

事業者向け 児童発達支援自己評価表

		チェック項目	取り組み状況
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	法令を遵守した適切なスペースを確保しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	法令で必要とされる配置数に加えて、常勤換算数で1名以上配置しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	身体面のバリアフリーとして、スロープや手すり、多機能トイレなど設置されています。また、発達障害・自閉症スペクトラムの特性に沿った構造化のアイデアを用いて、部屋の環境や、療育内容・支援方法なども発達障害の方へのバリアフリーの配慮を行っております。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	常に掃除を心掛け、机や椅子も幼児用のものを用意しております。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか。	業務改善については、日頃より会議や研修などにおいて、職員で取り組んでいます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	保護者向けにアンケートを配布し、意向や思いなどをお聞きしました。保護者の方々の思いを大切にしながら、業務改善につなげていきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価	当法人のホームページで

		表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	現在は利用者と当法人との二者評価となっております。毎月、スーパーバイズをいただいている先生に来ていただき、相談、確認を繰り返しながら、療育内容の改善につなげております。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	児童精神科医の門眞一郎先生による、職員研修を定期的に実施しています。また、専門家によるコンサルテーションに入ってもらったり、外部の研修にも参加するなどして職員の資質向上を行っています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	日頃の療育の中での当法人独自の特性評価や行動観察、発達検査・知能検査などのフォーマルな情報、家庭や学校での様子を療育毎に保護者の方とお話させていただき、生活全般をふまえた上でご本人さんの課題や目標を設定し、計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	行動の背景を検討する際に、発達検査や知能検査などの標準化された指標を確認しております。ま

			た、行動観察する際に適宜、共通の評価シートを用い行動を分析し支援につなげております。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	保護者の方から聞き取った情報をもとに、職員間で話し合いながらお子さんの特性に沿った、支援内容を設定しています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	児童発達支援計画を確認しながら、その都度目標や課題を設定して支援を行っております。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	各職員の専門性を活かし、職員間で話し合いながら活動プログラムの立案を行っております。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	定期的に活動の見直しを行い、目標、課題に応じて活動の変更をしております。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童支援計画を作成しているか	各お子さんの特性や目標に対して、個別プログラムや小集団プログラム、集団プログラム、就労準備プログラムなどそれぞれに合わせた計画を作成しています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	毎朝朝礼を実施し、支援内容や役割分担について確認しています。また活動前・活動中に目標確認や振り返りを通して職員間のコミュニケーション

		を密に取っています。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	終了後には職員間で振り返りを行い、気付いた点等を話し合い、今後の支援に活かしています。
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	紙媒体だけでなく、IT 機器などのツールを活用して日々の支援記録を取り、データや記録に基づいた分析をしています。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6 か月に 1 度のペースでモニタリングを実施し、計画に対する評価を行っています。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもに精通した最もふさわしい者が参画しているか	サービス担当者会議には、管理者および日頃からお子さんの療育に入り支援しているスタッフが参加しています。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	お子さんの特性や必要な支援について、基本的には保護者の方を通して情報を共有させていただいています。また、必要に応じて、電話でのご連絡や会議などを適宜行っています。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	保護者の方よりケアについて必要な情報を確認させていただいています。必要に応じて、保育、教育の先生と連絡できる体制を整えています。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)	保護者の方よりケアについて必要な情報を確認さ

		子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	せていただいています。 必要に応じて、主治医の先生と連絡できる体制を整えています。
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	ライフステージをつなぐ支援を大切にしています。幼児期から学齢期への移行をスムーズにしていくためにも、お子さんの特性をまとめた特性シートや支援のマニュアルなども作成してお伝えしています。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	保護者の方と共に、サポートシートなどを作成しております。その中で、必要な支援や支援ツールなどもお伝えしています。また、必要に応じて関係機関と直接連絡をとっています。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	大阪府発達障害支援センターのアクト大阪と連携しています。また、当法人が東大阪市から受託している東大阪発達障害相談支援センターがありますので、そちらとも連携し、助言や研修などを受けています。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	農園を始めたので収穫祭を開いたり、地域の方にもご参加いただける書道教室を開催し、交流を図っていきます。
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子	自立支援協議会やケア連

		ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	絡会など、地域 の様々な協議会に参画しています。また、国や大阪府の強度行動障害養成者研修に関する委員会等にも参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	ご家庭での様子や課題の確認などを療育毎にお聞きし、ディでの様子や支援について報告・相談の時間を設定しております。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	保護者の方にも参加していただける研修を実施しております。また、課題や困り事に対してご家庭での支援や工夫なども一緒に考えております。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	利用開始時に説明し、疑問などあればその都度丁寧な対応を心がけています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児童発達支援計画を保護者の方に示し、説明をしながら同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	日頃から保護者と報告・相談の時間を設定しており、その中で、助言や支援等行 っています。また、必要に応じて、当法 人の東大阪市委託の発達障害相談センターの機能を用いて相談の対応をしてお

			ります。
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		保護者の方が集まり、情報交換や日頃の 悩みや思いを出せる場所としてピュアカ フェを2、3カ月に1回のペースで開催しております。
36	子どもや保護者からの申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		苦情があれば、その都度迅速かつ適切な対応を心がけています。
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		不定期ですが、会報(ピュア通信)を発行し、またホームページやブログなどで、活動内容や具体的な支援についてなどを広く周知しています。
38	個人情報に十分注意しているか		個人情報は鍵付きキャビネットに保管しています。
39	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか		それぞれのお子さんの特性や認知レベル をアセスメントする中で、理解コミュニケーション、表出コミュニケーションの支援を行っており、PECS(絵カード交換 式コミュニケーション)やその他の表出コミュニケーションツール、構造化などの工夫を 用いています。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか		農園で収穫祭や、地域の方主催の食育イベント、書道教室などを開催し、地域の方々にご参加いた

			だけるよう案内しております。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	各種マニュアルや BCP などを策定し、委員会で日々の対策を検討しています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	定期的に避難訓練を実施しています。一人ひとりに合わせた工夫を用いています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	保護者の方から通院状況などを聞き取り、てんかん等あれば詳細を確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギーの有無について聞き取りを行い、接触が起こらないように気をつけています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハット事例が起こった場合、記録し共有する中で、改善が必要な点などを話しあっております。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止研修に代表の職員が参加し、他の職員にも伝達研修をしております。 また、法人内に虐待防止委員会を設置しており、定期的に話し合い、全体に周知することで虐待防止に努めています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上	出来る限り身体拘束を行わずに支援や工夫で解決していかないかをまず管

		で、児童発達支援サービス計画に記載しているか	理職も交えて会議をする中で考えております。その上で、ご本人さんにとってやむを得ない状況の場合は、理由、期間などを保護者に説明するとともに、個別支援計画の中に記載します。さらに、その対応が必要かどうか、代替的な支援がないかを適宜考えております。
--	--	------------------------	---